

しゃりん 29 2013/6

御遠忌特集号



堺支院オープニングイベント 開催の願い

第21組以速寺・山雄竜鷹さん

さる4月13日(土)午後6時から、難波別院堺支院で宗祖親鸞聖人750回御遠忌オープニングイベントが賑々しく開催されました。

このイベントは、堺支院を会場とする御遠忌法要を検討する中で生まれてきました。長い時間の末見えてきた課題は「宗祖の御遠忌をお迎えするとは？」という基本的なものであり、その手法は「聞く」という単純明快なものでした。私たちがなすべきことは二度の宗祖の御遠忌を体験され、同朋会運動50年の歴史を担われてきた先輩を訪うことしかない、やっとなががついたのです。

当日は、第4組慧光寺前坊守の近松佐和子さん、第10組是三寺前住職の楠 校さん、第20組願久寺前住職の藤園堅正さんにご出講いただきました。(第1組浄信寺副住職の西端春枝さんは、体調を崩されやむなくのご欠席でした)

まずは、お一人ずつの講演を賜り、その後第20組願正寺住職の松川真哉さん、同組安樂寺住職の上本和樹さんと私の三人が加わり、計六人で同朋会運動の歴史と展望についての意見交換を行いました。

本当に貴重なお話を伺いできました。

まず近松さんにお話をお聞きしました。「先の御遠忌で、参詣者が多くて座る場所がないことをご門徒にお詫びしたところここに来たという

ことだけで十分。戦争を越え、生きて本山で親鸞聖人にお会いできたことがもう嬉しくて仕方ないんだ」と逆に激励されました。御遠忌の翌年に同朋会運動が起こったのは歴史の必然だと感じられました。翻って「今回の御遠忌は、どこか皆がお客様になっている」という指摘が心に響きました。

楠さんからは「当時は新しい日本を作ろうという機運に満ちていた」という感想や、「この度の御遠忌、悲しいかな震災によって初めて私たちは真剣に仏法を聞くことができたのではないか」というご指摘と、「法を伝えるには、堅いことばかりでなく気軽な旅行などさまざまな方途を検討すべき」という提案が印象的でした。

そして、藤園さんからは、様々なエピソードと共に「人間に生まれたということの意味を考えて欲しい」「人生とはお浄土へ歩む道である」



4 /
13

御遠忌オープニングイベント

- 午後7時／難波別院堺支院
- 出演 近松佐和子さん(第4組慧光寺) 楠 校さん (第10組是三寺) 藤園堅正さん (第20組願久寺)

4 /
14

堺支院を会所とした御遠忌法要

- 午前9時／庭儀(参堂列)・日中法要
- 午後2時／第二日中法要
- 法話 中村薫さん(同朋大学教授)

「若き親鸞聖人の悩み」



「真宗のお寺は聞法の道場です」と、どこまでも求道聞法の道を歩むものとして生きよという励ましが印象的でした。

終わってみれば、このイベントは御遠忌のオープニングに納まるものではなく、私たちが進むべき道程が示されたスタートの合図であったのではないかと改めて思うことです。

彩のステージについて

第21組西向寺・新川隆教さん

堺支院の御遠忌法要では、境内白州に9m×5.4m、高さ3.3m（屋根付き）という立派なハイブリッドステージ TENT を設置し、午前「日中法要」と午後「第2日中法要」を繋ぐお

昼の時間に「彩のステージ」が開催されました。

このステージ

は、児童連盟のスタッフが参堂列参加のお稚児さんと共にバルーンで飾り付けをし、ご門徒さんによる大正琴の演奏、堺チア



リーディングクラブの演技、雅楽の実演、コーラスの先生による仏教讃歌指導と合唱、私の子ども向け時間という演出で進行しました。老若男女が年代を超えて出演することで「彩・いろどり」を表現しました。これは大変凄いことだと思えます。行事に取り組んでいただいた方や職員さん方のおかげですね。また、ステージ周辺には模擬店が並び、終始昼食をとりながら和やかな雰囲気が進められたことも大変印象的でした。

私自身、イベントではブットンくん和ホットマンにお任せをして、ちょうどよいくらいの手の抜きようで演じました。最近、ブットンくんではなく私が「ゆるキャラ」じゃないかと思うことがあります。

教如上人400回忌法要に 参詣して

第4組南徳寺・野尻政彦さん

4月23日、大谷派の派祖である教如上人の400回忌の法要が勤まりました。

従来の法要とは異なり大谷派の聲明に弦楽のオーケストラと日本古来の尺八や琵琶とのコラボレーションによる新しい試みがその法要として勤まりました。

この法要は御遠忌委員会の委員に出仕が呼び

4/
23

教如上人400回忌法要

弦楽オーケストラによる音楽法要

●午後2時

法話 草野顕之さん（大谷大学学長）
「教如上人と東西分派」



●正午／彩（いろどり）のステージ



掛けられました。内陣・後座出仕の方はおよそ20名と御遠忌委員会の総数にしては少なく寂しく思われましたが、法要自体は和洋のイイ所が窺われました。法要に不慣れな法中の方々には通常の法要ですら戸惑うのに、この様な特別な法要は大変だったと思います。

しかし非常によく出来たお勤めではなかったかと思います。

ただひとつ難を言えば、大切なお経『仏説阿弥陀經』の際、オーケストラの迫力があるが故に声明が響きづらく、出仕僧侶の方々や外陣の准堂衆会の皆さんは辛かったのではないかと思います。

今後この様な形式の法要をする際は課題になるのではないかと思います。

非戦・平和音楽法要の 開催にかかる願い

第15組正覺寺・木嶋孝章さん

宗祖親鸞聖人の御遠忌において厳修する法要であることから、その御生涯に想いを致しつつ、すべての戦争犠牲者を追弔し平和を願うものとなること。そして宗祖が願われた「世の中安穩なれ、仏法広まれ」と示された課題を共有し深めることを基本的な願いとし、具体的な法要形態などについて企画・検討を重ねてきました。

同時に、宗派と共に教区・難波別院が一体となつて継続して取り組まれている「遠松忌」法要が、昨年は難波別院を会場として勤修され、さらには憲法9条の改正（改変）がまことにやかに語られている今日です。そのような中、あらためて日露戦争当時、国を挙げて戦争賛美する中、非戦の立場を貫き大逆事件に連座させられた当教区の住職であつた「高木顕明」師の事績に学び、非戦・平和の尊さを確かめ合う機縁となることを、法要・法話の基底に置きつつ厳修することを願いとして開催しました。

音楽法要に参加して

御堂合唱団・北端盛子さん

大阪御堂合唱団はたくさんの方の指導者や団員に受け継がれて、昨年50周年を迎えました。

そして今年、御遠忌法要に参加させていただけるご縁に恵まれた事を大変ありがたく思っております。殊に「四弘誓願」や「重誓偈」の唱和の折には、演奏会とは全く違って、団員として経験した事のない緊張感に包まれました。やはりお莊嚴としての仏教讃歌を深めていくには、より高い音楽性が必要なのだと再認識いたしました。

また当団の他にも大阪教区では多くの方が仏教讃歌を歌っておられる事を改めて知り、音楽

4 /
24

速夜／非戦・平和音楽法要

御堂合唱団による音楽法要

●午後2時

朗読 梨木加陽子さん

「余が社会主義（抄）」

法話 姜 尚中さん（聖学院大学教授）

「いのちで繋がる平和の作法」



全納骨者御命日のつどい

●午後4時

五辻輪番および難波別院職員による出仕

いのちのライブ

●午後6時

出演 三藤観映さん（書家）

姜 尚中さん（聖学院大学教授）

川嶋あいさん（シンガーソングライター）

和太鼓スーパージョイント（侍）



法要で一緒にできて大変感謝しております。これからも皆様と交流させていただきたいと思えます。

「難波別院本堂の参拝席の南北が、一段高くなっているのは、音楽法要のための場所なのではないか」と五辻輪番がおっしゃってくださいました言葉を大切に、また仲間とともに南広間での練習を重ねて参りたいと存じます。

音楽法要に参加して

第9組徳用寺・藤政稔子さん

私にとって初めての音楽法要。楽しみでもあり、やや不安や緊張も感じながら参加させていただきました。

本堂に着座し、凜とした静けさの中、入堂曲「衆会」からいよいよお勤めが始まりました。私の中からはすぐに不安や緊張は消え、讃歌を歌う欲びが溢れました。

262人の男女混声の歌声がお堂に響き渡り、厳かな中にも音楽ならではのぬくもりが感じられました。仏教讃歌全8曲、「正信偈・同朋奉讃」をお勤めし、この場におられるすべての人が一体となった感動で胸がいっぱいになりました。

今回15の寺院、団体が参加しましたが、この法要がご縁となり、各寺院でますます仏教讃歌の歌声が響かんことを願ってやみません。

歌でつながる音楽法要

第17組法観寺・廣瀬 俊

「参加者が200名を超えましたよ」との報告。驚きと同時に、不安が頭をよぎりました。

音楽法要を行うことのキッカケは、2010



年に行われたお待ち受け法要から始まったと言ってもいいでしょう。お待ち受けでは、コーラス大会と銘打って寺院や組、その他で結成されているコーラスグループが一堂に会した場でした。「こんなにたくさんさんのコーラスグループがあつたんだ」というあの時の感動をこの御遠忌で表現したいという思いでした。

しかし総勢262名が、控室から整列し順番に本堂の左右の段通に並んでいく。言葉では簡単なことですが、一人ひとりの席を決め、混乱のないように、ケガや事故のないように進めていくために、何度も何度もお稽古をしました。

そして当日の本堂に響き渡った仏教讃歌の歌声は、それまでの準備の苦勞と不安を打ち消してくれました。歌が御遠忌法要を莊嚴すると同時に、コーラスに集ったご門徒同士が歌でつながる。大切な法要の一場面のお手伝いできたことに感謝したいと思います。

女性僧侶による法要に出仕して

第25組南林寺・藤林容子

「出仕！」

静まり返った後堂に響く声に、並んでその時を待っていた私の緊張感は、最高潮に達しました。蘭草履いぞうりを受け取り、「退がる時は右から、進むときは左から……」と、頭の中で出仕・退

出の確認をしながら、内陣へ歩を進めました。高く響き渡る調声ちやうしょうに続き、緊張の中にも力溢れる周りの声にひたすら調子を合わせました。貴重な一瞬を大切にしたいと、足の痺れも忘れ心を込めました。

女性僧侶のみでの勤行という、希少な今回の企画に参加させていただくことができたご縁がありがたく思います。女性同士の唱和は、調和がとりやすく心地よいものでした。

しかし同時に、今後は、女性のみというくくりではなく、本当の意味で男女の僧侶が対等に一堂に唱和する機会が増えることを願います。講師の先生はじめ、関わってくださったすべての方々に感謝いたします。

女性僧侶による法要に出仕して

第9組淨圓寺・難波美千子

緊張と不安いっぱいの面持ちで、後堂に正座し出仕を待つ女性僧侶59人。合図の声で入堂し、パタパタと中啓の置く音と共に着座していき、凛とした調声の方の声が、満堂の本堂に染みわたるように響いていきます。益々空気が張りつめる中、ちゃんと習礼したのだから、と自分に言い聞かせ、皆の声に合わせて発声していきました。

女性のみの勤行はけっしてか弱くなく、どつしりと力強く美しくまとまっていたと自負して

4 / 25

晨朝

●午前8時

●法話 澤田 見さん（第12組清澤寺）

「愚者になりて往生す」

日中／コーラスによる音楽法要

●午前10時

●法話 茨田通俊さん（第6組願光寺）

「悲しき身を歌に託して」



います。私たちのために、お忙しい中一生懸命ご指導してくださった先生方、準備してくださったスタッフの方々のためにも、無事、法要を勤められたことを嬉しく思います。

法要後、控室で五辻教務所長より、「今後も各法要出仕に、もっと女性の参画を教区に促していきたい」とご挨拶がありました。そのことばに、勤行を終えほっと安堵の表情だった皆の顔が、一層明るく誇らしげになったように見えました。親鸞聖人750回御遠忌法要をご縁にして、大阪教区からこのような流れが全国に広がっていくことを期待しています。

『御絵伝』から蘇る、宗祖のご生涯

第15組西稱寺・宮部渡さん

『御絵伝』とは親鸞没後34年目、その曾孫にあたる覚如が著した『本願寺の聖人親鸞伝絵』(詞書と絵で著された伝記、以下『伝絵』)の絵の



部分だけを取り出し4幅の掛け軸にしたもので、そのご生涯一場面ずつ、時系列で解説していくのが「絵解き」です。かつて大谷派では、報恩講の折よく用いられ、多くの門徒が宗祖の行実に親しく触れたのでした。

物の本によると『伝絵』制作にあたり覚如は多方面に綿密に聞き取りをしています。26歳頃、関東に赴き『歎異抄』の作者、唯円に取材したともいわれます。しかし、このお二人の著されたものは、時代、教義を共にしながら性格を異にしています。唯円の、ある種の純粋性に対し、覚如は、教団の維持発展のため、「本地垂迹

連夜／女性僧侶による法要

●午後2時～
●『御伝鈔』上巻絵解き・拝読
絵解き法話 戸次公正さん(第22組南溟寺)





御遠忌のさなかの 組門徒会員研修大会

大阪教区門徒会長・内山宗之さん

今年の「組門徒会員研修大会」は御遠忌法要への組門徒会員の団体参拝という形で実施いたしました。

門徒会員の皆様方には、あらかじめ自坊や組での参拝の計画を立てておられる中、非常にご迷惑をお掛けしたにも関わらず200人を超える会員関係者にご参加いただき、講堂は満席の様子でした。誠にありがとうございました。

今年度は難波別院作成の教如上人のビデオ視聴と、講談師・旭堂南海さんに教如上人について語っていただきました。

「講談師、見てきたようなウソを言い」とよく言われますが、実際に遇われた事があったのかと思わせるような真にせまる語り口で、私たちは知らず知らずの内に教如上人の世界に引き込まれていました。

私たちは恥ずかしながら真宗大谷派の派祖である教如上人についての知識に乏しく、この講談であらためて上人を身近な人として親しみを感ずることができました。机上の聞法だけが聞法ではなく、私たちの受け止め方一つで、漫画・音楽・観劇・講談など、あらゆるメディアから法を学べるという事を改めて思い知らされた、

説「真俗二諦論」を用いるなどしてまで、国家と同調していかなければならなかったからです。戸次氏は、常に「法難」の歴史を念頭におき、宗門の近代史を検証してこられました。正直、そのスタンスと絵解きが結びつかず違和感を持ったこともありました。

しかし、氏はそれらの問題をわが身の問題として歩まれたからこそ、宗祖の生涯を後世に伝えることに細部にまで心血を注がれた覚如の功績に着目し、むしろ、その時代社会における苦悩・葛藤にも思いを馳せ、戸次氏一流の解説を加えての絵解きが完成されたのでありましよう。ユーモアあふれる語りの中にそこはかとなく漂うペーソスをも感じたのは私だけではないかもしれません。勝手な解釈を記してしまいましたが、寛容にお受けとり願います。

両日、堂内に「受け念仏」がこだましました、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

4 / 26

晨朝

●午前8時

●法話 宮部渡さん(第15組西稱寺)
「五濁惡世の有情の」

日中

●午前10時

●法話 高島洸陽さん(第5組専光寺)
「苦悩の有情をすてずして」

逮夜

●日中参拝の後

●難波別院製作「教如」ビデオ鑑賞
講談 旭堂南海さん
「教如上人ものがたり」

～教如上人と石山合戦～

組門徒会員研修大会

●午後2時

●『御伝鈔』下巻絵解き・拝読
絵解き法話 戸次公正さん(第22組南溟寺)

この度の「組門徒会員研修大会」でした。

御遠忌に参加して

第19組佛號寺・芝辻知奈美さん

今回の御遠忌では、ご縁あつて「女性僧侶による法要」での内陣出仕、また「東日本大震災追悼音楽法要」では朗読等をさせていただきましました。「へなちよこな私でも、思いを声にすることはできるんや！」という気持ちで参加いたしました。

「女性僧侶による法要」では、以前教師修練にて、お声明嫌いだった私にお声明の素晴らしさを一から教えて下さった、京都教区の先生が外陣出仕されていました。月日が経ち、今回再会し、共に同じ法要に出仕できたことに胸が熱くなりました。

法要前、緊張がすさまじく、吐き気がこの上なかつたです。ある先生に、「緊張を感動にかえられたらいいね」とお言葉をいただき、ある先生には山門で背中を叩いていただき……。

法要が始まると、訳も分からず必死に通っていた真宗学院の頃を思い出し、まさか御遠忌でお内陣に座ることになるなんて、感動で胸がいつぱいになりました。

法要中は、日頃、お声明を教えて下さっている先生方に、感謝をお伝えしたい一心で声を出

しました。

「東日本大震災追悼音楽法要」の朗読では、「いのちの尊さ」をお伝えする一員となれたらという思いで、参加させていただきました。

ちょうど法要の2週間程前でしょうか。淡路島を震源地とした地震が起こり、私が住む羽曳野市でも震度3の揺れがありました。その少しの揺れを体感した時、東日本の被災者の方々はどれほどの恐怖や悲しみ苦しみを経験されたことだろうと、改めて被災者の方々へのいろんな感情が湧き出しました。そんな自分が恥ずかしく、また自分の愚かさにも心底情けなさを感じたことを思い出します。

「私達のことを忘れないで下さい」と何度も何度も声にされ、深い苦悩の中で、一日一日を乗り越えておられる被災者の方々のことを思うと、悲しみの繰り返ししか生まないことはやめて欲しいという思いでいっぱいです。

この御遠忌を機縁として、たくさんの先生方、先輩達の存在の大きさを身に染みて感じました。背中を押していただき、いつぱいの勇気と力をいただきました。

「人の支えなしには何もできない私」また「自分の弱さと強さ」にも改めて気付きました。これからも一步一步、共に教えをいただき、歩んでいきます！

第二連夜／東日本大震災追悼法要

●午後6時～

●現地報告 清谷真澄さん

詩の朗読 芝辻知奈美さん(第19組佛號寺)
(現地復興支援センター主任)



常設展示と佛華について

ちいちの華・澤田 見

御遠忌期間中、御堂会館地下1階では、「三藤観映書作展」と、佛華研究会ちいちの華による「佛華展」が開催されていました。

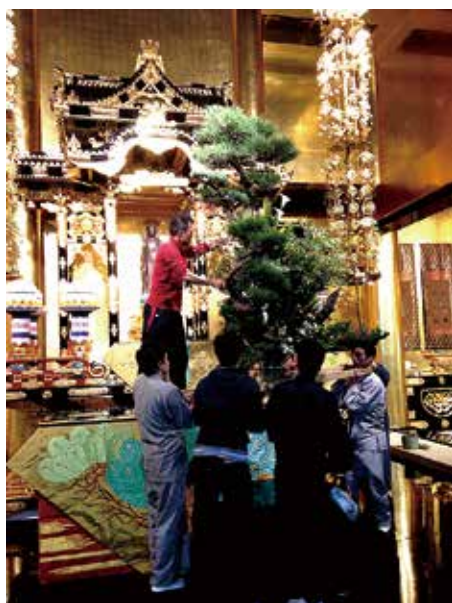
書家の三藤観映さんは能登教区のご住職でもいらつしゃいます。作品の展示の他にも、希望する字を色紙にその場で揮毫し、その収益を東日本大震災の義捐金とされる活動を行っております。



れました。たくさんの人々が思い思いの字を揮毫していただいております。

佛華研究会「ちいちの華」では、今回の御遠忌法要の佛華関係すべてを担当させていただきました。お内陣が大きいためあまり感じませんが、本堂のお華はとても巨大です。すべてを立華するのに会員総出で、3日間かかりました。御遠忌にふさわしい荘厳なお華になったと思います。

「佛華展」は、会員12名がそれぞれ異なる佛華を立てました。同じ華材を使用していても、それぞれの個性によって違うお華になるなあと、改めて感じました。期間中たくさんの方々にご来場いただき、大谷派の佛華を間近で見ただけでした。また機会があれば、ぜひ開催したいと思っております。



4 / 27

晨朝

●午前8時〜

●法話 山口知丈さん（第9組昭徳寺）

「生死無常のことわり」

日中

●午前10時〜

●法話 大江憲成さん（九州大谷短期大学学長）

「念仏の信をたまわって」

結願逮夜（御親修）

●午後2時〜

●法話 大江憲成さん（九州大谷短期大学学長）

「当来する浄土に召されて」

第二逮夜／子どもの出仕による法要

●午後4時半〜

●法話 廣瀬俊さん（第17組法観寺）

「始まりとしての浄土」

子どもの出仕による法要

第27組願隨寺・平野圭吾

4月27日の第二連夜「子どもの出仕による法要」では10人の小中学生が出仕してくれました。また10人以外にも得度前の小さな子どもたちが参詣席と一緒に元氣にお勤めをしてくれました。

出仕前の控え室では、これまでの習礼、そして自宅での練習の成果を出すために、みんな自分で装束を着けようと一生懸命頑張っていました。とはいっても、やはり手助けなしでは難しいようで。スタッフもいるのですが、親は気になって、ついつい手を出してしまいます。

本番を前に最後の練習を行い、直前には式支



配さんの訓示を受けて、さあ出発。余間から外陣に出て、着座、合掌。子どもたちは緊張の面持ちです。カンカンと鑼が入って、子どもらしいちよつと高めの声の正信偈

が始まりました。慣れない正座で少しもぞもぞした子はいましたが、問題なくきちんとお勤めができました。みんな凄いで、頑張ったね。



終了後、控えでインタビューを受けていた子どもたちはどんな感想を述べてくれていたのでしょうか。この度のことがよい思い出と経験になって、仏法相続の糧になってもらえれば幸いです。

大阪教区では、本山での御遠忌の際も「子ども真宗本廟体験（御遠忌出仕サポート）」を行いました。また毎年、「得度受式後研修会」も行っています。教区の御寺院さまにおかれましては、将来を担う子どもたちの体験の場、学びの場へどうぞ子どもたちを送り出していただければと願う次第です。



如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も
骨を砕きても謝すべし

4 /
28

結願晨朝

- 午前7時
- 法話 松山正澄さん（第19組正受寺）
「報謝の生活」

結願日中（御親修）

- 午前9時 御堂筋パレード実施
- 午前10時 庭儀（参堂列） 発進
- 午前11時 法要

発行日：2013年6月30日
発行所：真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人：五辻信行

編集： 第4組 常樂寺・久世見証
第9組 淨圓寺・難波美千子
第10組 是三寺・北川浩三
第12組 清澤寺・澤田 見
第16組 即得寺・大戸俊彦
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第25組 南林寺・藤林容子
第27組 願隨寺・平野圭晋
第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>